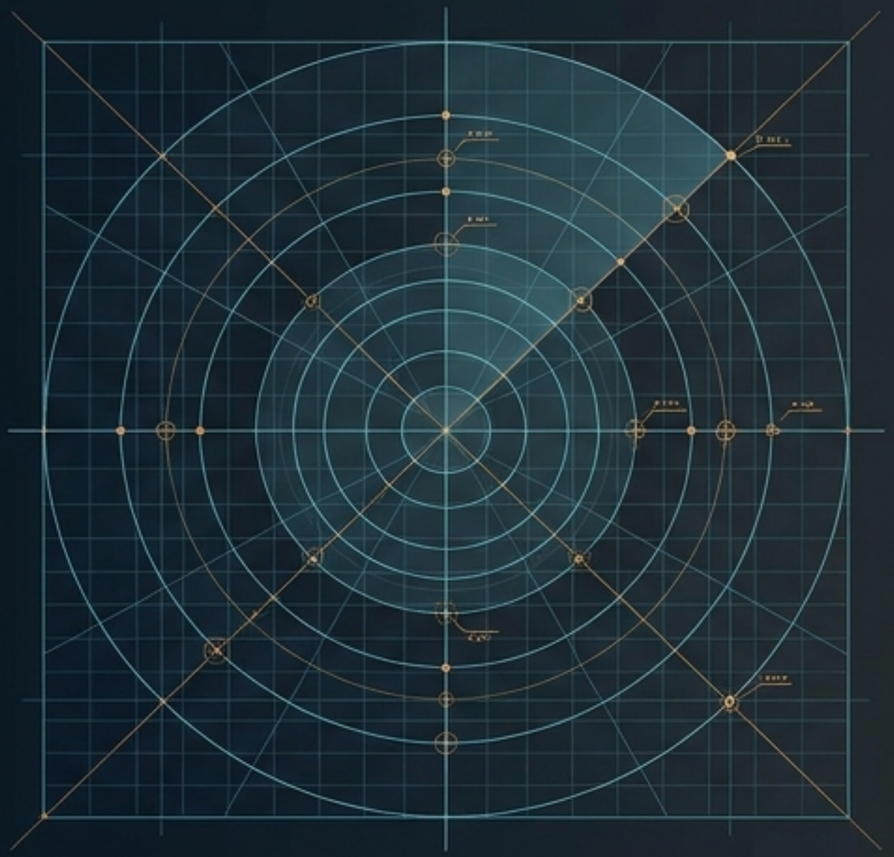


WIPI 2026 深層解剖：データが暴く「見せかけの成長」と日本企業の次世代知財戦略

WIPO最新統計の裏側にある「AI出願ノイズ」と「得意技術の退潮」を直視し、企業価値を最大化する5つのアクションプラン

経営層・CIPO・R&D戦略リーダー向けインテリジェンス・ブリーフィング

Gemini Notebook

1. The Illusion
（表面的なマクロ状況）

- 世界の特許出願は394.9万件 (+6.0%) で過去最高。日本 (+10.8%) もインド (+37.5%) も大躍進。
- しかし、これは「AIによる国内出願ノイズ」と「学術偏重」が混ざった見せかけの数字である。

2. The Core Threats
（直視すべき3つの深層）



- ⚠ 日本企業の海外出願は**実質減少**。**米中65%集中**から脱却できていない。
- ⚠ 日本の得意領域（内燃機関・単体ハード）の**退潮**と、**デジタル通信における非特化**の露呈。
- ⚠ 2027年半ばに押し寄せる「8.2万件/月」の異常な公開特許ウェーブ。

3. The 3 Pivots
（次世代知財戦略の3本柱）

1. **地理的再配分：**「米中二極」から「米・中・印＋新興国」への予算シフトと商標先行。
2. **デジタル・グリーン転換：** 蓄電池・電力網・AI制御を軸とした多層的知財ミックス。
3. **AI時代の攻守：** 生成AI実務の品質統治と、2027年公開波への迎撃体制。

Gemini Notebook

The Macro Landscape

特許:
394.9万件
(前年比 +6.0%) - 過去最高

商標:
1,592.3万クラス
(前年比 +4.1%) - 過去最高

2025年世界特許純増数 (+22.4万件) の国別寄与度



- グローバル知財活動はパンデミック前の水準を凌駕。
- 特許成長の重心は完全にアジア（シェア71.2%）へ移行。
- 欧米主要国（米国-2.7%、ドイツ-0.8%）が後退する中、アジア4カ国が世界の純増分をほぼ独占する「一極集中」が鮮明に。

Gemini Notebook

【戦略的集中・拡大】

- 特許出願：191万件 (+6.3%) - 世界シェア48.4%
- 植物品種：2万件 (+29.5%) - 世界シェア60.5%
- グリーン技術：世界の公開特許の58.8%を占有

【量的絞り込み・量重視からの脱却】

- 実用新案: 264.8万件 (-16.8%) - 単年で約53.5万件の大幅減
- 意匠：84.9万件 (-6.4%)

中国のマイナス成長領域（実用新案・意匠）はR&Dの減速ではない。実質審査を伴う特許や次世代領域（植物品種・グリーン技術）へ資源を振り向ける「質への構造転換」の明確なシグナルである。

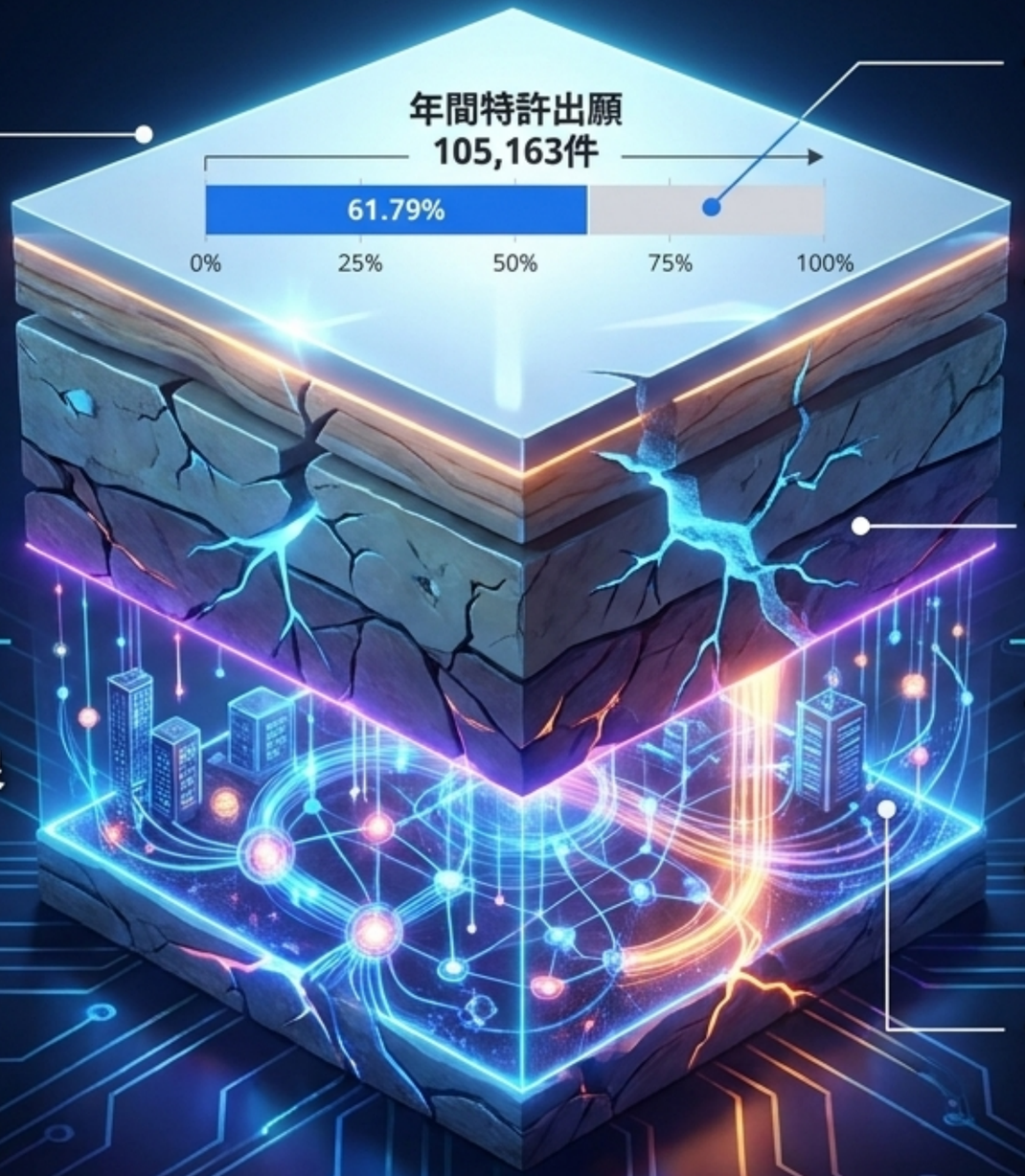
Gemini Notebook

インドIPエコシステムの深層構造

表層：ヘッドラインの錯覚

中間層：内部構造の歪み
（CGPDTM統計）

深層：真のイノベーション源泉
（脅威と機会）



- **WIPO発表**：年間特許出願105,163件（+37.5%）で史上初の10万特件の鵬万件突破。国内出願比率が61.79%へ上昇。
- **学術偏重**：国内出願の55.25%が大学等の学術機関、25.17%が個人。スタートアップはわずか7.7%。
- **審査のボトルネック**：2025年の特許登録件数は前年比-41.2%と急減。
- **外資系GCC**：国内に1,800拠点超、216万人の専門人材が集積。
- **ソフトウェア・AIのグローバルR&Dハブ**。出願の多くは親会社名義で海外へ。
- **商標の急増**：年間64万クラス(+20.1%)、国内比率96.7%でブランド競合リスク激化。

Gemini Notebook



WIPO発表: 日本オリジン +10.8% (46.6万件) / JPO受理 +16.8% (35.8万件)
(PANEL A　日本の特許出願にみる国内急増と海外配分の非対称性
- JPO 2025年総出願 358,317件 (前年比+16.8%) - 本人出願(代理人なし) 24.5%)

Contrast Matrix: Illusion vs. Reality

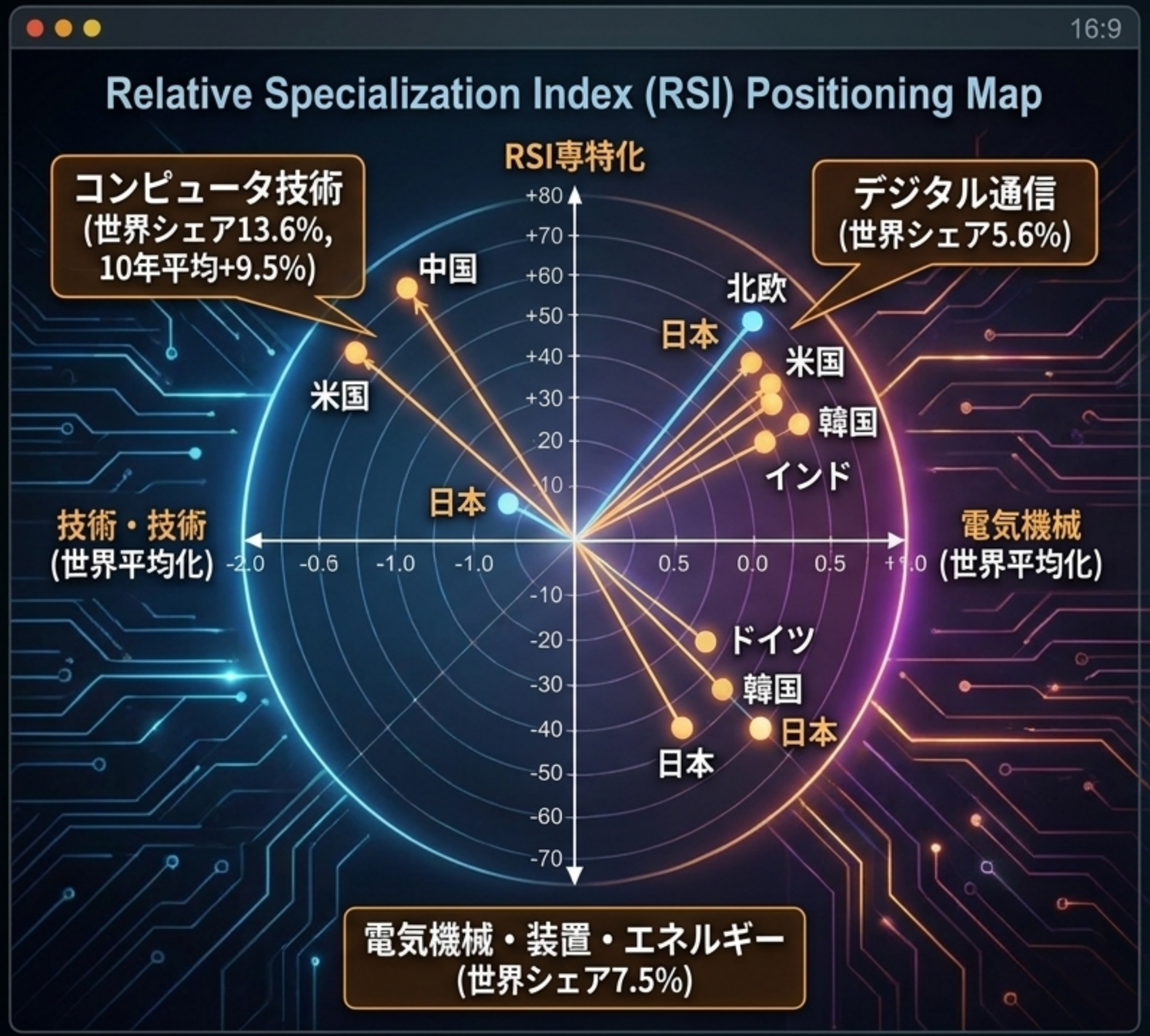
1 本人出願の急騰:
弁理士を介さない本人出願率が前年の5.3%から「24.5%」へ異常な急上昇。

2 海外展開の縮小:
出願増はほぼ全面的に「国内出願」に依存。
海外出願は実質約5,000件の減少。

3 投資の偏在:
限られた海外出願も、依然として「米国 (40%) と中国 (25%)」の2カ国に65%が集中。

⚠ この急増は国際展開力の強化ではない。特定企業群による「生成AIを用いた国内直接出願の集中（ノイズ）」の可能性が極めて高く、WIPOもAIドラフティングの影響として注視している。

Gemini Notebook



Japan's Gap (日本の「空白」)

- 日本は成長筆頭のデジタル・AI領域（コンピュータ技術・デジタル通信）の双方で「非特化」。
- 唯一プラス特化を示しているのは「電気機械・装置・エネルギー」。
- インサイト: ハードウェア・装置系への過度な依存が、出願規模（世界3位）と資本市場からの無形資産評価の乖離を生む一因となっている。

Gemini Notebook

2024年グリーン公開特許 (約61.3万件)：中国 58.8% / 日本 9.6% / 韓国 9.3%

Ascending Currents (急成長領域)



・エネルギー貯蔵・蓄電池 (17.4%)：
グリーン全体の最大サブ分野。



・スマートグリッド・送配電 (15.2%)：
10年平均+13.0%(主要分野で最高)。



・EV充電インフラ：
年平均+65.8%(爆発的成長)。



Descending Currents (過去10年の減少領域)



・ハイブリッド車



・高効率燃焼

インサイト：日本の自動車・機械産業の中核領域であった「内燃機関・単体効率化」から、「蓄電池・電力網制御・充電網のシステム統合領域」へ戦場が完全に移行した。

Gemini Notebook

戦略1: 地理的ポートフォリオの再設計

円安・知財費用高騰下における「米中二極」依存からの脱却



原資の捻出:

米国・中国における低稼働特許や慣習的な防衛出願を厳格に棚卸しし、維持・出願コストを削減。

新興国への再配分:

世界第6位庁のインド、10位へ浮上したブラジル、商標出願が急伸する新興国へ予算をシフト。

対インド二段構え:

- 【商標先行】製品投入前に周辺区分を含め網羅的に押さえる。
- 【特許】審査官不足を回避し、中核案件に絞ってPPHや早期審査制度を適用。

Gemini Notebook

戦略2: インドGCC共創と複合保護設計

インドを単なる「市場」ではなく、デジタル・AIの「グローバルR&D共創拠点」として活用する



1. ナノGCC・大学エコシステムの目利き：多数を占める大学出願の中から、商業化ポテンシャルの高いシード技術を選別・提携する現地機能を構築。

2. 複合的な知財ガバナンス（ソフトウェア保護の壁の突破）：
   - 【特許】インド特有のソフトウェア方法クレーム制約を回避するため、ハードウェア・システム連携を明記したクレーム設計。
   - 【営業秘密＆契約】人材流動性の高さを前提とした、厳格な権利帰属・機密保持契約とトレードシークレット管理の徹底。

Gemini Notebook

戦略3: 2027年半ばの公開波への迎撃体制

本人出願率24.5%を含むAI由来の大量ノイズ特許から、自社の事業領域（FTO）を防衛する

震源地: 2025年12月
（8.2万件の異常出願）

18ヶ月の潜伏期間

第1防波堤：AIセマンティック検索・自動トリアージ
（人海戦術の限界を認め、AIを活用した公開公報の自動選別・抵触リスク判定を導入）

第2防波堤：機動的な情報提供
（阻害出願に対し、新規性・進歩性の疑義を審査段階で迅速に情報提供）

第3防波堤：
特許異議申立&自社早期審査
（登録に至ったノイズ特許への異議申立ワークフロー整備。自社の重要案件は早期審査を活用し長期化を回避）

津波: 2027年半ばの
大量公開波



Gemini Notebook

戦略4: 生成AI知財実務の「量から質への統治」

R&D実態を伴わないAIドラフティングによる薄い特許の量産は、将来の維持費を膨張させる自殺行為である

✕ NGアプローチ（量産ノイズ）

件数目標の達成のための安易な出願量産

NOISE

○ 推奨アプローチ（価値直結型KPI）

- ✓・クレーム強度の向上（複数実施例・変形例の自動検証）
- ✓・クリアランス（FTO）調査の網羅性向上
- ✓・外国出願時の翻訳・現地法適合ドラフトの効率化

QUALITY

【Governance Foundation（ガバナンス基盤）】

未公開発明の外部学習防止（機密保持）と、人間による法的アカウンタビリティ（最終確認）を社内規定として徹底する。

Gemini Notebook

戦略5: 技術ポートフォリオの重心移動と知財ミックス

単体ハードウェア特許の優位性低下に伴い、「システムアーキテクチャ」の多層的保護へシフトする



【The Shift in Technical Focus】

装置単体から「AI制御」「スマートグリッド連携」「EV充電・デマンドレスポンス連携」など、ソフトウェアとネットワークが結合したシステムレイヤーへ研究開発段階から知財設計を移行する。

【The Multi-Layered Arsenal】

特許単独での差別化が困難な領域の総力戦：

- 特許・営業秘密：システムアーキテクチャとデータアルゴリズム
- 意匠：仮想空間を含むUI/UXデザイン
- 商標：グローバルなブランド・トラスト

Gemini Notebook

戦略アクション・マトリクス

戦略領域	構造変化（WIPI2026）	自社のリスク	具体的アクション（2027年以降）
海外配分	アジア71%占有 インド躍進	米中偏重による 新興国空白	低稼働特許棚卸し、 印・伯へのシフトと商標先行
印R&D共創	GCC216万人の集積	活用遅れ・ ソフトウェア保護不備	デジタル共創拠点化、 特許/秘密/契約の複合保護
国内防衛	JPO 12月8.2万件 本人出願24%	大量公開時のFTO逼迫 抵触リスク	AI自動選別導入、 情報提供・異議申立体制の整備
AI統治	AI出願増への WIPO懸念	無駄な維持費膨張 市場評価低迷	AIを「クレーム強化・翻訳」に 限定、機密ガバナンス徹底
技術シフト	蓄電池・電力網拡大 内燃機関縮小	単体ハード優位性低下	AI制御・システム特許への移行 と多層的知財ミックス

Gemini Notebook



The New IP Paradigm:
特許「件数」から、企業価値・無形資産の「最大化」へ。

表面的なヘッドライン（件数増）に惑わされてはならない。
大量公開のノイズに耐える「防衛力」を備え、デジタル・グリーンへの
「技術転換」を完了し、新興市場とAIツールを正しく「統治」する企業のみが、
次世代のグローバル競争における真の無形資産価値を確立する。

Gemini Notebook